

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

3月8日発行

第13号

文責 中野善文

第3回《学校運営協議会》を終えて ～地域の方々に支えられた1年に感謝！～

2月20日（火）に、今年度のまとめとなる第3回学校運営協議会を開催しました。開会に先立ち、令和5年度岩手県中学校総合文化祭「未来ビジョン・ヤマガタ」のビデオ鑑賞を行いました。学校運営協議会の内容は、令和5年度のまとめとワークショップ「地域で育てたい生徒像」について、活発な話し合いがもたれました。それらの内容について紹介します。

第1部 「令和5年度のまとめについて」

- (1) 学校評価について（校長）
今年度の反省と来年度に向けて
- (2) 質疑・意見交換

重点項目「学校が楽しい」「自己肯定感」「将来の夢（希望）」＋「相談しやすい先生がいる」
3年間で大きく評価が高まっている。課題は、家庭学習及び学力向上→工夫改善を進める。

アンケート結果について

成果を上げているものが多く、質疑・意見は出されませんでした。課題（「家庭学習」「学力向上」）については、授業と家庭学習の工夫改善により解決に向けて取り組むことを確認しました。

演劇について

- ・堂々とした演技が素晴らしく、感動した。長い期間練習を重ねてきたことが伝わるものだった。
- ・演劇は、地域学で学習したことを生かしたもので、非常に価値の高い発表になった。
- ・演劇の中でも闘牛やまめぶ、白樺等に触れ、地域を大切にしたい思いが伝わってきた。ただ教わるだけでなく、自主的に関わることで将来の自分のものになると思うし、今後も続けてほしい。涙が出るような素晴らしい演劇だった。
- ・着飾らずに普段着で、大きな声で演技ができていた。思いやりや男女間の交流の様子も見られて良かった。
- ・台本も子どもたちが何度も練り直しながら立派に表現できた。授業でも根拠をもって自分の考えを堂々と発表できるように指導していきたい。

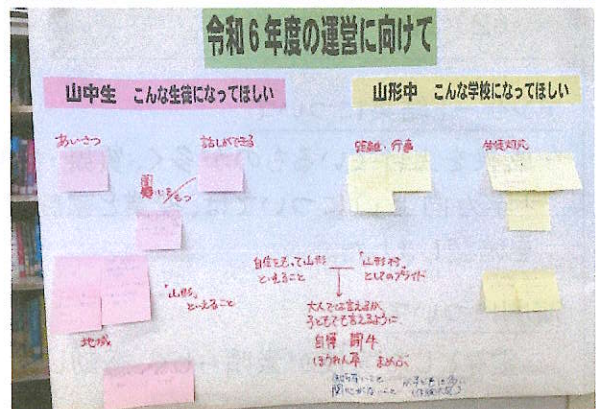
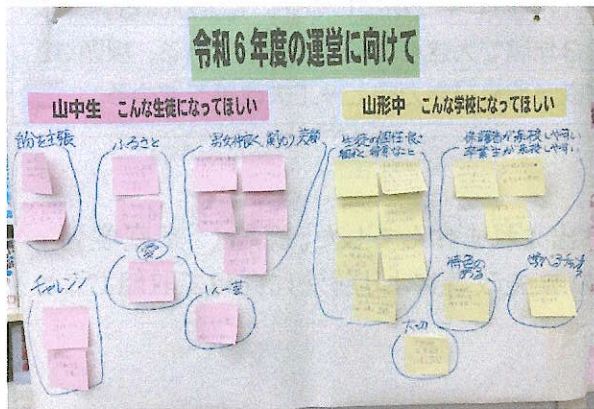
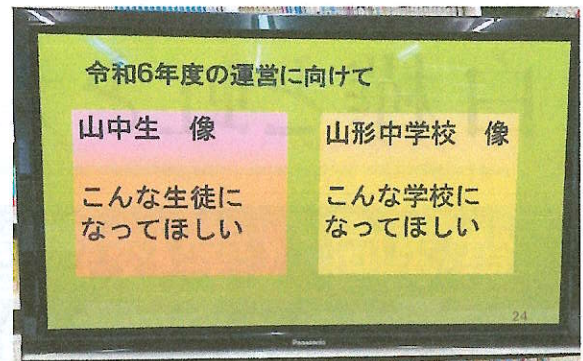
生徒の表現力（作文）について

- ・以前、人権擁護教室を実施した際の生徒の感想の内容が素晴らしかった。人権作文も評価が高かった。生徒の表現力の高まりを感じている。
- ・アンケートを見ても、授業で発表経験を重ねることで、自分の考えをしっかりと発表できると捉えている生徒が増えてきている。卒業生に関しても、自分の意見をしっかりと表現できている生徒が多いようだ。
- ・入学後、様々な授業や行事を重ねる中で、内容の濃い（量の多い）感想や考えを書けるように成長している生徒が多い。

第2部 来年度の運営に向けて

ワークショップ「地域で育てたい生徒像」

「生徒像」と「学校像」をそれぞれに付箋紙に書いて、グループごとに交流しました。



【こんな生徒になってほしい】

- ・自分のことを愛する人
- ・高い自己肯定感
- ・故郷を自慢できる
- ・笑顔が似合う
- ・一人一芸



【こんな学校になってほしい】

- ・個性や良さ、得意なことを伸ばす
- ・保護者や卒業生が来校しやすい
- ・学べるチャンスをつくる、特色を伸ばす
(地域の人材活用)
- ・山形町(地域)を大切にする

【こんな生徒になってほしい】

- ・あいさつ
- ・話ができる、周りと関わっていける
- ・自分は「山形」出身と言える

【こんな学校になってほしい】

- ・地域の行事に積極的に関わる
- ・特色をいかした
- ・「山形(地域)」を誇りに思えるような
- ・様々な体験ができるような
- ・3つの力で生徒を育てる

今回共有した「地域で育てたい生徒像・学校像」をどのように実現するのかについては、来年度の第1回学校運営協議会で協議します。ぜひ、ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

今年度は学校運営協議会の皆様から、ソーラン半纏の制作と創作演劇にお力をお借りし満足のいく結果と成果を残すことができました。この紙面を借りて、改めて御礼を申し上げます。